

内視鏡検査の所見

リアルタイム音声入力

レイシスソフトウェアサービス（大阪市中央区、小野逸二社長、06・6210・0077）は、内視鏡検査所見入力システム「Voice Capture II 写真」を製品化した。医師が大腸ポリープなどの消化器内視鏡検査時に、両手がふさがった状態でもリアルタイムで所見を



音声入力できる。消費税抜きの価格は200万円から。

システムは医師が検査時に装着するマイク、タブレット、サーバー用パソコン、ソフトウェアなどで構成する。医師が内視鏡検査終了時に記憶をたどりながら所見を作成するため、リアルタイムで記録ができず

レイシスソフト

時間と手間がかかっていた問題を解決した。音声入力した所見は医師用と患者用の両方にアウトプットができ、患者の待ち時間短縮にもつながるといふ。

現在、関西のいくつかの病院で試験導入し活用データを蓄積中。今後は内視鏡メーカーや医療用ファイリングシステムメーカーとの連携を検討していく。

また大腸だけでなく胃など他の臓器の検査にも対応できるように開発している。